

①「旧江戸城と外堀」

特別史跡江戸城跡と史跡江戸城外堀跡・常盤橋門跡を中心とした旧江戸城の地域です。その中心部は現在、皇居東御苑や皇居外苑として受け継がれ、江戸城の主要な建物である御殿は現存していないものの、堀や石垣のほか櫓、城門、番所等から豊かな歴史的景観と自然を有する公園として私達に憩いの場を提供しています。江戸城外堀跡は天下人の巨城の姿を留めており、外堀公園や飯田橋駅・市ヶ谷駅・四ッ谷駅などに残る城門跡・台地や谷といった複雑な地形を利用して構築されたことを現代に伝え、都市の重要な骨格であることがわかります。

④「外桜田門から東海道界限の大名屋敷」

日本橋・京橋・銀座という江戸の中心街を通り、海岸沿いを通過する東海道を中心とした地域です。この界限は蔵屋敷や庭園を中心とした大名屋敷が建ち並んでいました。現在も旧浜離宮恩賜庭園や旧芝離宮恩賜庭園、金比羅宮がその痕跡を伝えています。その南には高輪大木戸や品川台場など江戸防御の重要な地域であったことを示しています。また、徳川将軍家菩提寺の増上寺や泉岳寺など江戸時代来の寺社も多く見られます。増上寺には二代将軍徳川秀忠の旧台徳院霊廟のほか五名の将軍や皇女和宮の墓所が公開されています。

明治時代以降の文化財としては、近年発見された高輪築堤跡と旧新橋停車場跡の歴史展示室は我が国初の新橋・横浜間鉄道（明治5年）を今に伝えています。さらに有楽町駅から新橋駅にかけて、御茶ノ水・東京駅から続く明治時代の煉瓦高架橋が残り、東京都心の鉄道の歴史を知ることができます。これらの文化財は、東海道界限が江戸から東京における都心の入口であったことを伝えています。

⑤「江戸の水辺」

神田川・日本橋川のクルーズとしても人気の地域です。この川は、江戸時代の外堀を出発点として、そこには石垣が残り、明治時代の常磐橋、日本橋など著名な橋のほか、関東大震災後に架け替えられ、およそ百年前の震災復興橋梁が今も現役で使われています。これら江戸東京の歴史を知るうえで、船での散策は有効です。

⑥「奥州道・日光街道界限の江戸の寺社」

上野寛永寺と浅草寺を中心とした江戸時代来の寺社の多い地域です。江戸城鬼門に寛永寺が置かれ、増上寺とともに徳川将軍家の菩提寺となり、家綱・綱吉の霊廟が現存します。周辺には十五代将軍徳川慶喜の霊廟や大名墓のある谷中墓所、東照宮や子院、不忍池などがあります。明治維新後には上野公園や北の玄関口である上野駅が開設されました。上野公園には博物館や大学など文化施設が置かれ、この地域には近代の建造物も多く見られます。

浅草寺は古代から都市の中心として栄え、江戸時代には祈祷所に定められ、本堂や五重塔、宝蔵門が残ります。浅草寺周辺には江戸有数の盛り場となり、見世物小屋などもありました。明治維新後、見世物小屋は六区に移転し、凌雲閣や演芸場、映画館、花屋敷といった都内屈指の娯楽街が形成されました。こうした江戸時代の歴史的建造物のある浅草寺や周辺の飲食・娯楽施設が都内最大の観光スポットとなっています。

江戸城下町の範囲は、江戸後期には「四里（約16km）四方」ともいわれるほどの巨大な都市でありました。それを引き継いだ東京都心には、各地域で核となる文化財が残り、それらを繋げることで、地域が歩んできた歴史を見つけることができます。次頁のイラストマップ片手に地域の歴史探しの旅に出てはいかがでしょうか。

江戸東京歴史文化回廊

江戸城下町の歩き方

多くの人々に深い感動を与えてきた上質なまちあるき

江戸城ならこの人

後藤 宏樹 氏（ブラタモリの案内人）



平成31年4月に改正された文化財保護法は、これまで保存の意味合いが強かった同法から、文化財を活用しながら保存する方向へと舵が切られました。また、同法では文化財のうち重要なものを守る指定制度とともに、登録文化財という緩やかな保存を行い、点在する文化財をストーリーにもとづき地域の歴史を伝える方策なども重点施策としています。

これに沿って地域では個別の文化財の「保存活用計画」や地域全体を網羅する「文化財保存活用地域計画」を定め、文化財を適切に保存し次世代に継承するとともに、積極的な公開・活用を通じて、広く市民に対して文化財を親しむ環境をつくり、その価値の理解を深めることとしています。

それでは、当財団の目指す「よみがえれ江戸城・城下町ルネッサンス（再生・活用）」が、これからの「文化財の保存と活用」に果たす役割はどこにあるでしょうか。

東京は今から約四百年前に徳川家康が江戸城を天下の府に定めて以来、我が国の首府としての歴史を持つ都市であり、幕末には百万都市として栄え、その巨大な城下町は「徳川の平和」を象徴する空間でありました。

今から百五十年前に江戸城は、無血開城を果たし、明治時代を迎えても都市の中心部が維持され、江戸という都市を下敷きとして独自の文化を形成し、西洋都市とは異なる、世界に類をみない大都市として発展した姿を私たちは享受しています。

しかし、こうした歴史的な都市であり、そこには近世近代の多くの歴史的な遺産があるにも関わらず、広範な地域に分布しているため全体像を把握し伝え切れていないと言えます。

東京に暮らし活動し、訪れる多くの方々が江戸・東京の歴史を体感し理解するためには、その中心である旧江戸城の歴史性の再生とともに、巨大城下町の痕跡を示す多くの歴史文化遺産を結び、連携して江戸・東京の歴史性を伝えられると考えます。これは複数の区にまたがるため、行政だけでは果たすことができず、大学や民間など市民の広範な活動が必要となってきます。

次ページの「江戸東京歴史文化回廊『江戸城下町』の歩き方イラストマップ」は、旧江戸城と放射状に延びる五街道をもとに地域区分をしたものです。最終ページでは、イラストマップ中の7つの歴史ゾーンから①、④、⑤、⑥について詳しく紹介します。

江戸東京歴史文化回廊『江戸城下町』の歩き方イラストマップ

7つの歴史文化ゾーン・江戸編

旧江戸城及び城下町は現千代田区などの8区域の広範囲に及び建造物や史跡等の600ヶ所を対象としました。江戸城の城門(田安・半蔵・外桜田・常盤橋・神田橋)から放射状に延びる旧街道を中心に7つの歴史文化ゾーンの界隈には旧江戸城の遺構の他大名庭園、市民により守られてきた稲荷神社など江戸時代の痕跡を沢山みつけることができます。都市東京の多彩に満ちた現代文化に歴史文化遺産が加わることで奥深く魅力的な東京になるでしょう。

1 旧江戸城と外堀

江戸城の痕跡は、皇居東御苑に残る江戸城跡(国特別史跡)の石垣や櫓のほか、牛込門から赤坂門までの江戸城外堀跡・常盤橋門(国史跡)が残ります。

2 田安門から旧上州道沿いの寺院

江戸五口のひとつ江戸城北の丸の田安門(国重要文化財)から牛込門跡を経て神楽坂周辺には江戸時代来の寺社が残ります。

3 江戸城外堀と徳川御三家屋敷

半蔵門から四谷門跡を経て、四谷大木戸跡、内藤家屋敷跡(現・新宿御苑)へ向かう江戸五街道のひとつ甲州街道をたどります。この界隈は、徳川御三家の紀州藩邸跡と尾張藩邸跡、彦根藩伊上家屋敷があり、明治維新後に皇室邸宅(北白川宮邸・李王邸、伏見宮邸、閑院宮邸)となります。

4 外桜田門から東海道界隈の大名屋敷

外桜田門から虎の門の外堀石垣を経て、大名庭園(旧浜離宮恩賜庭園・旧芝離宮庭園)や徳川將軍家菩提寺の増上寺をたどります。

5 江戸の水辺

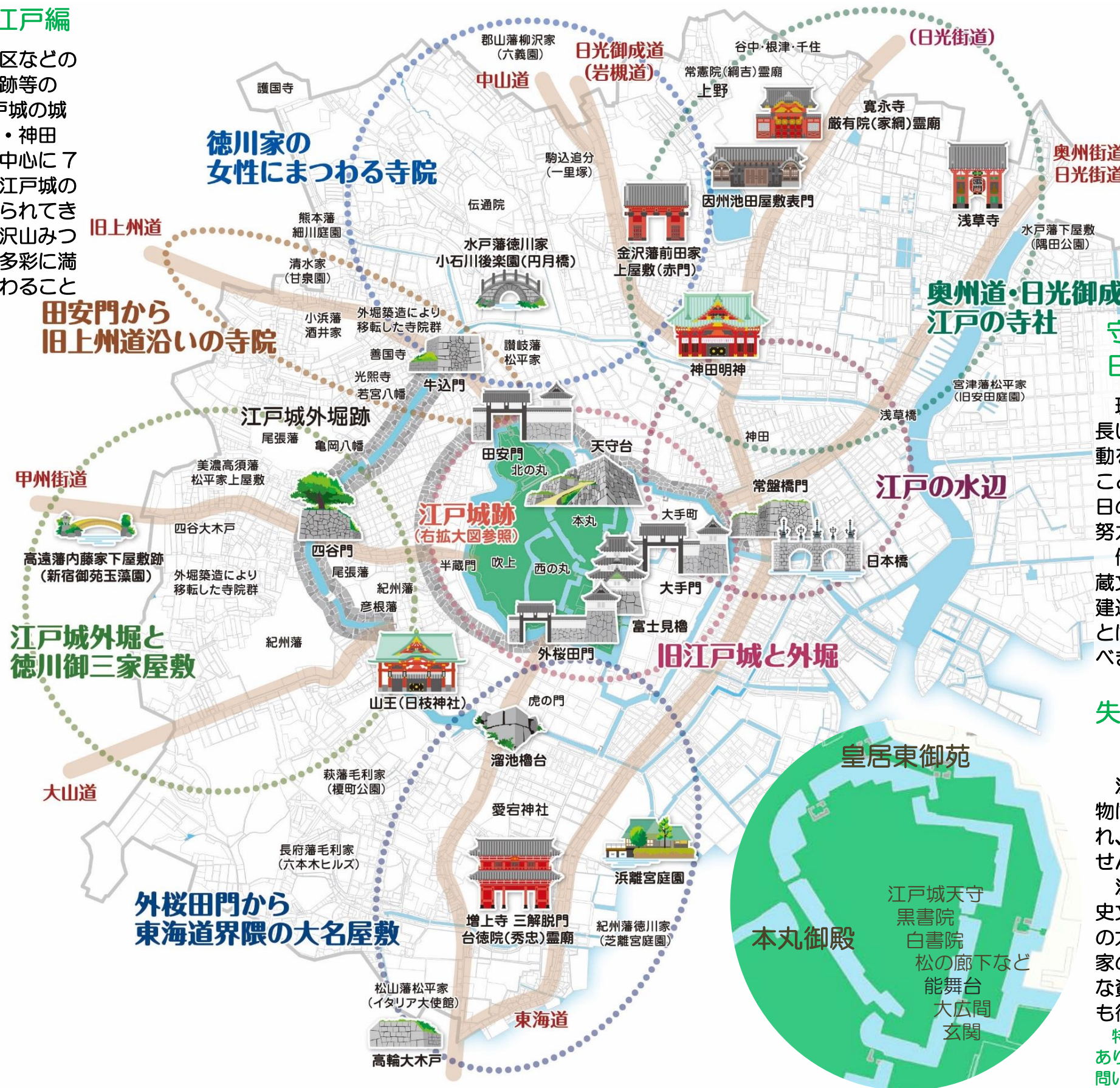
神田・日本橋界隈の稲荷と天下祭、旧外堀(日本橋川の大手町川端緑道)に残る石垣や常盤橋門跡、さらに日本橋(国重要文化財)へ続く水辺をたどります。

6 奥州道・日光御成街道界隈の江戸の寺社

筋違門跡(現・万世橋エキュート)から神田明神・湯島聖堂を経て、寛永寺のある上野をたどります。徳川家綱・綱吉の霊廟建築のほか、谷中の大名墓や近代歴史建築物といった歴史が集積しています。

7 徳川家の女性にまつわる寺院

伝通院と護国寺には、徳川將軍家に関わる女性の墓所が残ります。また、旧中山道沿いの金沢藩前田家上屋敷跡(東大赤門・三郎池)、柳沢家下屋敷庭園の六義園をたどります。



歴史文化遺産とは・・・

＊文化財や未指定の文化財及び地域固有の地域遺産など多様な歴史と文化を総合的にまちづくりに活かす遺産を資産として、次世代に、継承し、未来に託す遺産のこと。

守り伝え繋ぐ人々の物語・・・ 日本文化の優れた特筆すべきこと

現存する神社仏閣、石垣などの古文化財は、長い間、多くの人々の喜びや悲しみ、祈りや感動を受け続けて来ました。現在、その姿を見ることができるのは、私達の祖先や先人達が、今日の時代まで守り伝え繋ぐことに弛まぬ想いや努力があったからに他なりません。

他国にみられるように世界的に貴重な地下埋蔵文化財の例とは一線を画して、木造の歴史的建造物などの修復や保存を伝え継承してきたことは世界に類を見ない日本文化の優れた特筆すべきことと云えるのではないのでしょうか。

失われた歴史文化遺産と 甲良家と市中の大工達

江戸城の天守や本丸御殿など多くの歴史建造物は、明歴の大火など度重なる大火により失われ、現代に生きる私達が目にすることは出来ません。

江戸城跡には現在も世界に比類ない莫大な歴史文化遺産が埋蔵されています。代々江戸幕府の大棟梁職を務め、城の造営改築を担った甲良家の技術と普請を支えた市中の大工達など多彩な資料や詳細な復元図が今に残され、直ぐにでも復元が可能です。

特別史跡における江戸城天守や歴史的建造物の復元のあり方について(理事長特別メッセージ)は、事務局にお問い合わせ戴くホームページをご覧ください。